



特集

美術・音楽・国際・情コミュ

全4学科が行った1年間の活動をお知らせします!

【表紙】「大分国際車いすマラソン大会 第6回交流イベント～海外選手とTALK SHOW～」(2015年11月)にて、
選手を取り囲む国際総合学科の学生たち

vol. 42

大学発ベンチャー・ビジネスプラン コンテストでグランプリ

12月18日(金)に九州内の専門学校、高専、短大、大学の学生・院生・研究者等を対象にした「第15回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」が福岡市で開催され、尾崎勝也さん(専攻科造形専攻プロダクトデザイン2年)の「Molded plywood spring clogs TALARIA」という新しい木製履物のビジネスプランがグランプリに輝きました。県産業創造機構などのサポートを受け事業化を目指します。また、3月の全国大会出場を決めました。尾崎さんは「気が引き締まる思いです。多くの人と出会い、やり方を模索していきたいです」と語りました。



OPAM小学生招待事業の パンフレットをデザイン

県立美術館の小学生6万人招待事業で、専攻科造形専攻ビジュアルデザインコースの7名が蛇腹折りの児童向け教材パンフレットと、先生の指導用冊子の2種類を制作しました。パンフレットを制作するにあたり、7名全員でデザインイメージについて話し合い、子どもにとっての美術館や美の世界は「未知の世界」であり、みんなで探検に出かけて行くというストーリーを設定しました。



デザインパテントコンテストで入選

文部科学省、特許庁、日本弁理士会、(独)工業所有権情報・研修館が主催する「平成27年度デザインパテントコンテスト」で新名かすみさん(美術科デザイン専攻プロダクトデザイン2年)の作品が意匠登録出願支援対象に選出されました。デザインパテントコンテストは学生一人ひとりのデザインで社会や暮らしをより良くし、未来を切り拓く、そのような体験の機会を提供し、学生の知的財産マインドを育てるとともに、知的財産権制度の理解を促進することを目的に開催されています。支援対象となった新名さんの作品については、今後弁理士の指導を受け、意匠権の取得を目指します。



九重の2小学校で 「地域ふれあいアート講座」を開催



10月20日(火)に九重町立野上小学校で美術科美術専攻の1年生28名が参加して「野上自慢かるた」作りを行いました。学生たちはコラージュなどの技法を児童に教え、かるた作りをサポートしました。11月20日(金)には九重町立野矢小学校で、美術科デザイン専攻の1年生16名がクリスマスツリーと「飛ぶメッセージカード」を児童と作成しました。美術を通して学生と小学生は仲良くなり、楽しい時間を過ごした一日でした。



Cover of Epistula

専攻科造形専攻の浦丸真太郎さんと河原貴子さんは「S&K」というブランドを展開中。大分フォーラスの「DISCOVER BY ACID GALLERY」にデザイン・制作したアクセサリーを出品しています。二人の作品は今後、PARCO原宿店などへも出される予定です。



美術科・専攻科の2年生108人の集大成「第54回美術科卒業・修了制作展」を大分県立美術館(OPAM)で2月2日(火)〜7日(日)に開催しました。昨年4月に開館したばかりのOPAMに、油彩画・日本画・ミクストメディア、彫刻、ビジュアルデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン分野の力作が並びました。

また、期間中に「芸短DESIGN SCHOOL2016」を開催。デザインプロデューサーでアシコンセプト代表取締役の名児耶秀美さんが「デザインの可能性」や「デザインを活用して世の中を元気にする」をテーマに講演を行いました。



多彩な演奏活動

●小中学校などを訪問

日出町の川崎小学校と国東市の国東中学校で地域巡回演奏会を、佐賀県玄海町の玄海町民会館では出前演奏会を開催しました。小中学生や地域の方々に



たちの日頃の成果を披露しました。

●大分駅や大分市美術館で



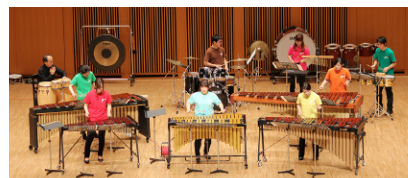
多くの人が行き交うJR大分駅。「駅ナカコンサート」では管楽器の学生たちが金管五重奏で出演。「A列車で行こう」など駅にちなんだ曲目に構内は盛り上がりました。また駅前行われたハロウィンコンサートには打楽器の学

生も加わり、買い物客らを前に「Stickin' Garbage」や「銀河鉄道999」などを熱演しました。「第16回上野の森アートフェスティバル」では大分市美術館にて金管五重奏の出前演奏会を開催しました。

●打楽器専攻学生による

「パーカッショングループ ミレニウム17thコンサート」

さまざまな楽器と勇壮かつ繊細で巧みな演奏に会場は大きな拍手と熱気に包まれました。舞台セッティングの合間、作品の理解がより一層楽しくなる松倉利之教授の解説も行われ



ました。次回、18thコンサートは2016年12月10日(土)を予定しています。

●音楽科教員による

「ジョイントコンサート～3大Bのタベ～」

「3大B」とは3人の作曲家バハ、ベートーヴェン、ブラームスのイニシャルをとったもので、西洋音楽を代表する音楽家の代名詞としてよく使われるものです。厚みのある宮添専任講師のダイナミックなピアノの響きに、川瀬教授



のシャープなヴァイオリンの演奏が好対照をなし、ヴァイオリンとピアノというミニマムな編成を超えたスケールの大きな音楽がつむぎだされたプログラム前半。そして後半はブラームスのホルン・トリオが演奏されました。ここではピアノとヴァイオリンに加え、清水教授のすべてを包み込むような上質でメロウなホルンの音がホールに満ち、観客から惜しみない拍手が送られました。

新人演奏会 出演者が決まりました

大学推薦を受けた学生たちが、次の新人演奏会に出演が決定しました。

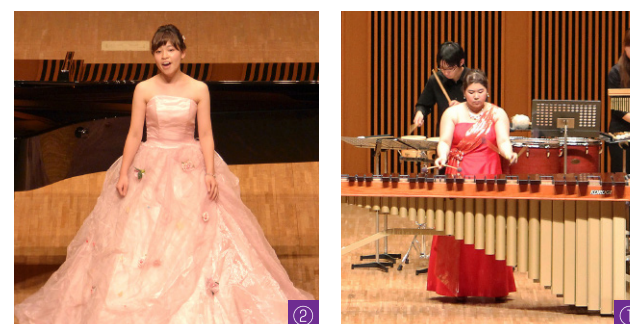
【読売新人演奏会】渡辺楓(声楽)、山下優輝(管楽)
【アルゲリッチ音楽祭】甲斐圭菜(声楽)、大橋奈菜(ピアノ)
【日本ピアノ調律師協会・九州新人演奏会】今野俊郎(ピアノ)

著名な音楽家や東京藝大名誉教授の公開レッスンを開催

世界的な音楽家である佐藤美枝子客員教授(声楽)、小林道夫客員教授(声楽)、東京藝術大学名誉教授の瀬山詠子(声楽)、同じく辛島輝治(ピアノ)による公開レッスンを行いました。受講した学生は「他の学生のレッスンも見ることができ、普段気づかない発見がありました。とても勉強になりました」と感想を述べました。



音楽科では1回の舞台経験は、100回の練習に勝るをモットーに、七つの演奏会(音楽科コンサートシリーズNo.79～84など)を開催しました。7月は学士取得申請のビデオ撮りも兼ねた「公開研究発表Ⅱ」(専攻科)、9月は前期実技試験成績優秀者による「若さあふれるコンサート」②を開催。10月には学科総動員の「第51回定期演奏会」③、11月以降は各コースの特色あふれるピアノコース演奏会「ピアノ音楽への誘い」④(11月)、「管弦打コース演奏会」(師走に心温まるひとときを)⑤(12月)、「声楽コース演奏会」(声の響宴)⑥(2月)を開きました。また、年度末には1年間の集大成である「第54回卒業演奏会」、「第32回修了演奏会」を開催します(3月22日、23日)。



卒業演奏会・修了演奏会出演者

3/22、23 iichiko音の泉ホール 17:30開演

〈卒業演奏会〉

●ピアノ

緒方 菜々
小田 弥生
加藤 詩乃
伊達 紋可
大橋 奈菜

●声楽

磯田健太郎
上田 愛
本村 若菜
甲斐 圭菜

●管弦打

井元彩英乃
緒方 杏
黒木 真子
萩原 佑
清田 真佑
山下 優輝

〈修了演奏会〉

●ピアノ

後藤 早希
清水 絵里
高橋 依杏
今野 俊郎

●声楽

高橋 紗綾
田尻 菜月
橋本 夏希
藤田英璃奈
渡辺 楓

●管弦打

大場日香里
下川 未貴
中村 匡希
野口理佐子

●作曲

野村 和音

●指揮

宮腰 花秀

Cover of Epistula

ピアノをメインにした第51回定期演奏会。奏者である今野俊郎さん、後藤早希さん、大橋奈菜さんの3名がピアノコンチェルトへの熱い思いを語りました。



留学生とのお別れ会



中国・江漢大学からの留学生、潘俊雅（はん・しゅんが）さん、姚晶晶（よう・しょうしょう）さん、周晨萱（しゅう・しんかん）さん、鍾苗苗（しょう・みょうみょう）さん、呉煉（ご・れん）さんが無事1年間を終えました。母国へ戻る前に、国際総合学科ではお別れ会を開催。留学生たちは大分で1年間過ごした感想について「温泉が好きになった」「ラーメンが美味しかった」「日本で生活したこと自体がとても良かった」など、好印象だったと丁寧な日本語で話しました。最後に「武漢に来て！おいしいものがいっぱいありますよ!」「また会いたい」と口々に語りました。

釜山外国語大学編入学者が次々と

本学は、2014年10月に韓国・釜山外国語大学と国際交流協定を締結し、「編入学受け入れに関する覚書」を交わしました。そして平成26年度の国際総合学科の卒業生（2015年3月卒業）の5名が、2015年9月から、同大3年次として編入学しました。また、今春新たに3名の卒業生が釜山外国語大学へ留学することが決まりました。

名誉教授称号授与式を執り行いました

11月13日（金）、本学学長室にて「名誉教授称号授与式」を執り行いました。名誉教授の称号は、本学を退職し、教育上、研究上、大学運営上及び地域貢献上、特に功績のあった方に授与されます。本学ではこれまで、38名の方々へこの称号を授与しており、今回は、2015年3月に退職された国際総合学科の上野正二元教授、入野賀和子元教授へ授与しました。



ヨーロッパ講座とスロヴァキア・ウィーク

ヨーロッパ各国の歴史や文化、現在の姿を、著名なゲストのトークと映像や音楽で紹介する「ヨーロッパ講座」。今年度は2名のゲストをお招きしました。4月はアンスティチュ・フランセ九州のジャン＝シャルル・シェンケル副館長。フランス・シャンソンの魅力を丁寧に紹介されました。11月には、スロヴァキアについてミハル・コットマン駐日スロヴァキア共和国特命全権大使がその魅力を語りました。

また、コットマン駐日大使の来県に合わせ、「スロヴァキア・ウィーク」を開催。スロヴァキアに縁の深いアーティスト・あぐさん（名古屋在住）をお招きし、人形制作のワークショップやギャラリー、絵本展を実施しました。



国際総合学科では例年、さまざまな国際交流が図られます。今年度も大勢の学生が、多様な文化的行事に参加しました。6・7月は大分高専のタイ人留学生2名が本学を訪問。大分県立美術館で学生たちと美術鑑賞を行いました①。11月は恒例の「大分国際車いすマラソン大会第6回交流イベント」海外選手とTALK SHOW「」が行われ、コーディネートの廣道純選手、マシュー・デイヴィス選手（アメリカ）、ホセ・ゲラ選手（メキシコ）から競技の事や大会目標などをお話しいただきました②。学生たちは大会ボランティアとしても活躍しました。

祭（大分市後援）を初開催。米国スミソニアン博物館フオークライフ・文化遺産センターでプログラムキュレーターを務めるジェームズ・ドイチュさんを特別講師に、映画3作品を鑑賞してアメリカ文化を学びました③。また、前日の「日米友好のモイニシアテ」イブ・ハニススキ植樹式（大分市オー）スチン市姉妹都市提携25周年記念の交流会では、ドイチュさんと在福岡アメリカ領事館首席領事のユーリ・フェツキフさんを取り囲み、英会話を楽しみました④。夏には、2014年度「海外ボランティア実習」報告プレゼンテーションも行われ⑤、学生にとって、さまざまなグローバルな活動に参加できた1年間でした。

「さまざまな国際交流を体験しました」

Cover of Epistula

本学で11月5日（木）に開催した「大分国際車いすマラソン大会第6回交流イベント～海外選手とTALK SHOW～」の表紙。廣道純選手と海外選手が軽快なトークを繰り広げ、学生たちは熱心に聴き入っていました。



社会起業論「事業計画書」を発表



社会起業論では社会をフィールドとした起業とは何かをテーマに講義展開しています。その時、欠かすことが出来ないのが、資金という「お金」との関係です。この講義では、三井住友銀行の和田友宏・大分支店長をお招きし、リアルな現場と起業の関係についての知識と、起業の醍醐味や厳しさを学び、集大成に「事業計画書」を作成しました。

1月30日(土)には、本物の銀行員(和田支店長)を前に、融資をお願いするという場面設定の事業計画発表会を開催しました。1年生18人が、7分ずつ自身の事業計画を発表。時間が足りず肝心の「お金」の説明ができなかったり、起業内容に社会的意義が見えにくいときっぱりと指摘されたりと、伝えることの難しさや事業計画を作る大変さを学生たちは実感しました。和田支店長は「半年の間でこれだけの事業計画ができたのに驚きました。発想の着眼点が面白く、楽しかったです」と学生たちをねぎらいました。

和田支店長による講評例

- ◆「地域密着型デイサービス事業計画」
中身がよく分析されています。
- ◆「コンサート専門マネジメント会社事業計画」
熱意を感じました。既存のサービスで不足している部分に着眼した計画書です。
- ◆「夜間託児所事業計画」
オーディエンスの目を見て話していたことを評価します。発表にインパクトがありました。

卒業研究発表会を開催

平成27年度卒業研究発表会を2月4日(木)、5日(金)に開催しました。13ゼミの64件の研究発表が行われました。10分間の発表のほか質疑応答でのやりとりなど、研究のみならずプレゼンテーション力も最後まで鍛えられました。



研究発表一例

- 子どもが好きな人と嫌いな人の違いー子どもの行動に対する認知の違いー
- 非正規雇用と生活保護
- 若者の地元志向についてー就職活動における意識調査を手がかりとしてー
- アーティスト活動における知的財産権
- ジャニーズファンの行動と特色
- サブカルチャーが現代の若者に及ぼす影響について
- 芸短大の100円朝食の取り組みについて
- 4K動画の活用ー高精細収録による撮影法ー
- 府内学生エコフェスター地域活性化と環境問題を考えるー
- 路線バスのこれから
- 演劇における配役への共感と没入ーシナリオの音読と演技の効果ー
- 嘘を見抜く人の特徴とは
- VR(バーチャルリアリティ)の今後ー仮想現実との関わり方ー

本学で「九州心理学会 第76回大会」開催

11月14、15日(土、日)、九州心理学会第76回大会が本学で開催されました。研究発表とシンポジウムが行われ、延べ400名近くの方々が本学を訪れました。

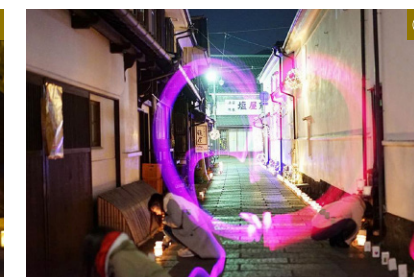
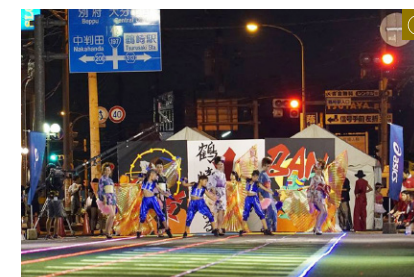
公開シンポジウム「子どもの自主性・主体性を伸ばす『勇気づけ』のコミュニケーションー子育てと教育の現場からー」には、多くの県民の皆様が出席されました。始めに大分大学の古城和敬教授から『勇気づけ』の理論と技法が紹介された後、現場の先生方から、家庭や幼稚園、中学校や特別支援学校における、子どもの自主性を伸ばす取り組みが報告されました。子どもをほめたり叱ったりするのではなく、子どもの言動に着目し、「子どもなりの目的や計画に耳を傾ける」「出会った困難を乗り越えさせる」ことが、自信や責任感を育む上で重要であるという主張と実践はとても示唆的でした。

本学関係では、情報コミュニケーション学科の柴田准教授・吉山教授・凍田特任教授が「水害時の避難誘導アプリの開発ー心理学実験への活用ー」、藤田教授が「幼児のゲーム遊び場面における交代行動と情動共有の関連」というテーマで研究発表を行いました。

情報コミュニケーション学科

地域活動を学生が報告

今年度のサービスマーケティングで行った地域活動を学生が報告する「地域活動フォーラム」を1月19日(火)、26日(火)の二日に分けて実施しました。活動を企画運営する・活動の意味を調べ学ぶ・更なる活動を考える・その活動を発信しみんなに知ってもらう。この一連のプロセスを学生ならではの視点でまとめ、中心になつて活動した学生たちが発表しました。また、その他の活動についてと外部の方たちによる講評も行われました。



- あしなが学生募金活動
- 大分市森林セラピー事業①
- 竹田情報発信事業②
- 清正公鶴崎二十三夜祭③
- 木佐上活性化プロジェクト④
- 社会実験研究会 チームてつあと
- 府内学生エコフェスタ⑤
- 赤い羽根ボールペン応援プロジェクト⑥
- 活性化ネットワーク
- セタキャンドルナイト
- おおい子ども劇場 子どもキャンプ
- サイバー防犯ボランティア めじろんおおい見守り隊
- あなたへの「メリークリスマス」⑦
- 羅漢寺地域再生プロジェクト

Cover of Epistula



映像メディアゼミに所属する高田歩さん、井上千春さん、安達光梨さん、近藤みちるさん(2年)の4人は、インタビューを基本とした、発展する大分の今を伝えるWeb TV「芸短TV OITA UPDATE」を制作。6月開局以降、精力的に情報発信を行ってきました。

vol.39

学内ギャラリー作品介绍 (11~2月)

学内ギャラリーでは、美術科の学生の作品を展示しています。午前9時から午後6時まで一般公開しています。
学外からお越しの際は、大学事務局にお声掛けください。



日々是精進 今年度の受賞や商品化など学生の活躍をまとめました。

- ハングル能力検定試験合格**
国際総合学科2年生17名。5級8名、4級13名、3級3名(併願あり)。
- 英検2級合格**
国際総合学科1、2年生5名。
- 日中友好事業**
「2015年春節祭INおおい」協力に感謝状
池田茜、池邊爽香、岩永愛、江藤嘉晃、永星文那、大戸七月、川上真由、工藤萌未、庄司万里奈、菅凜奈、寺本淳平、樋口彩、三代春菜、山田正邦(国際総合学科2年・14名)
- 釜山外国語大学3年次編入学**
(2015年3月卒業、9月編入学)
【韓国語文学部】井上万由子/足立小夏
【ビジネス日本語学部】佐々木麻衣/杉本麻香/寺崎真由
- ピアヘルパー試験合格**
情報コミュニケーション学科56名
- 大分県立美術館小学生招待事業パンフレットデザイン**
専攻科造形専攻ビジュアルデザインコース7名

- 第17回大分県民芸術文化祭ポスターデザイン**
三野彩夏
- アートオリンピア2015入選**
浦丸真太郎
- 九州学生デザイン展**
【優秀賞】「イタリアンねすみのポー・ピッツァ」大塚智桂/「TALARIA」尾崎勝也/OPAM×ACCESSIBLE
「[出会いと五感]のポスター」別府穂乃華
【一般投票最優秀作品賞】「TALARIA」尾崎勝也
【一般投票作品賞】「Fashion zakka[kibunya]」のVI計画」大石葉月/「Cuddle baby buggy」佐々木史織
- TETSUSON2015長坂常賞**
「筒スツール」佐藤寿喜
- 金の卵オールスターデザインショーケース出品**
中谷真理
- MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD一次審査通過**
「犬と共生するための形の提案」藤菜摘

- 第15回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテストグランプリ**
「Molded plywood spring clogs TALARIA」尾崎勝也
- 平成27年度デザインパテントコンテスト入選**
新名かすみ
- 第37回滝廉太郎記念コンクール**
【声楽/一般】▽2位 山崎由夏▽3位 松本利則
- 第43回県音楽コンクール**
【ピアノ/大学・一般】▽奨励賞 牟田口七海
【声楽/大学・一般】▽1位・特賞 甲斐圭菜▽2位 松本利則▽3位 高橋紗綾▽奨励賞 上田愛
【弦楽器/大学・一般】▽2位 黒木真子(ヴァイオリン)
- 全日本学生音楽コンクール北九州大会声楽部門入選**
磯田健太郎、甲斐圭菜
- 第21回宮日音楽コンクール声楽部門予選入選**
橋本夏希
- 第7回東京国際音楽コンクール大学の部入選**
橋本夏希



学長 中山 欽吾

卒業・修了していく日

毎年このシーズンになると、多少複雑な気分になる。やっと顔を覚えて話ができるようになった学生も、卒業・修了していく日が近づいてくるからだ。学長として、大学全体を元気にすることで、学内に新しい波を起こしたいと頑張ってきたから、卒業式・修了式ではその巣立って行く学生達の肩を叩いて励ます一方で、何か喪失感に似たものを感じるのだろう。

より良い大学にするにはどうすればいいのかと考えながら、試行錯誤を繰り返してきたことについて、もっとみんなと話をする時間があればよかったと思ったり、私自身がかつて学んだり工夫したりした経験についても話しておけばよかったと思うこともある。卒業後に何かの役に立てばという老婆心に過ぎないのだが、た

だ、授業やセミナーなどで日常的に学生と接した訳ではなく、兼務で大学以外の仕事もやっているため、学生との交流の時間が十分に取れたとはいえず、叶わぬ夢だったのだろう。

とはいえ、一部の卒業生達とはSNSを通じて、時々交流していると、新しい就職先や進学先で、元気に頑張っていることも分かるし、心配は杞憂に過ぎなかったことに気がつく。そして、芸文短大時代を懐かしく思い出してくれることでホッとすることも多い。ときには元気そうな写真を見たり、大分の街や東京で実際に会う機会があると、大学時代から大きく成長した姿に、改めてホッとするのである。ましてや子供連れの卒業生に出会ったりすると、まるでおじいちゃん的心境になるという訳だ。

竹田キャンパス通信



美術科非常勤講師
前田 亮二

竹田キャンパスもまもなく6年の月日が流れます。その間多くの学生達がこの竹田の自然の中で、学び、そして遊んでくれました。この竹田キャンパスは本学とは違い利便性等不便な面もありますが、自然の中で生まれる「感性」が今後の制作や、勉学の糧となります。進学する学生達も今年卒業する学生達も「やすらぎ」をもとめて、またいつでも遊びに来てください。



今年度の主な活動報告

チューリップフェスタワークショップ(道の駅原尻の滝)／第10回チャリティーバザー(竹田市)トートバッグづくり／竹田キャンパス地域交流会／第6回美晴が丘の秋祭り(総合福祉施設美晴が丘)／直入地域ふるさと振興祭(直入支所前広場)

サービスラーニング報告

学生の声

「大学で学んだことを地域で活かし、活動することで学びの意義を知る」ことを目的としたサービスラーニング。「単なるボランティア」では終わらない、主体性・協調性・論理性のある「社会人力」を育成するプログラムを組んでいます。詳細や他の活動は情報コミュニケーション学科HP(<http://oitapc-cis.jp/>)・同facebookでご覧いただけます。

府内学生エコフェスタ

◆ 府内五番街でたくさんの新しい発見 ◆

情報コミュニケーション学科1年 日隈祐希

どうしたらスムーズに運営できるか自分で考えて行動しました。「商店街に行っても何もない」と思っている人たちに、イベントを開催することで足を運んでもらう機会をつくる。私自身、府内五番街には初めて行き、かわいい雑貨屋さんやトイレンナーレで装飾

されたトイレなど新しい発見をたくさんしたので、また行きたいと感じました。そのような気持ちにさせることが大事だと思います。また活動を通して、年上の人や初対面の人とコミュニケーションをとることができるようになるという大きな成果を得たのです。



鶴崎清正公二十三夜祭

◆ 祭全体の盛り上げにつながる活動 ◆

情報コミュニケーション学科1年 新崎真緒

ワークショップの代表として準備を進めました。子どもたちに楽しんでもらえたのですが、カードづくりはうわづくりと比べて人が来ませんでした。興味を持ってもらうにはどんなことをして、どんなふう伝えたらいいか考えさせられます。歩行者天国

を東から西に歩くにつれて人が多くなり、やっぱりメインステージの方に人が流れるのだなと実感しました。それでも芸文短大ブースに来てくださる人がいたので、この活動が祭全体を盛り上げるにつながるのだと思いました。



高崎山森林セラピーロード山開き

◆ 大分の自然と人のつながりの大切さを実感 ◆

情報コミュニケーション学科1年 渡辺ひかり

この活動から学んだことは、大分の自然の豊かさや人と人のつながりの大切さです。高崎山は緑がとてもきれいで、そこに生息する野生のサルたちもとてもリラックスしているように見えました。また、参加していた人たちも初対面の人と楽しく会話をしながら

山に登っていました。この、豊かな自然と人々のぬくもりは大事にしたいかなと思います。これからはもっとさまざまなサービスラーニングに参加して大分の自然と地域とのつながりについて学んでいきたいです。



学友会より

1年間ありがとうございました。七夕祭・芸短祭たくさんの方々のおかげで滞りなく進めることができました。4月からは新しいメンバーで学友会活動を行い、より芸文短大を盛り上げていきたいです。これからも学友会をよろしくお願いいたします。

芸文短大オープンスクエアを開催しました



キャンパス整備をはじめ、
 本学の現状を紹介する「芸
 文短大オープンスクエア
 『今』と『これから』」地域と
 ともに」を12月19日(土)、
 吾学長のトークイベント、

ichiko総合文化セ
 ンターのアトリウムプラザ
 で開催しました。俳優で画
 家の榎木孝明さんと中山欽
 吾学長のトークイベント、
 クリスマスミニコンサート、
 パネル展を行いました。
 パネル展は新キャンパス
 のイメージ図や大学沿革、
 各科の活動を伝える写真な
 整備に期待を寄せました。

どを展示しました。美術科
 の作品も並べられ、訪れた
 方々が熱心に見入っていました。音楽科学生5名とジ
 ュニアオーケストラ17名に
 よるミニコンサートでは「き
 よしの夜」や「カノ」二星
 に願いを」など、美しい音
 色を会場に響かせ、大きな
 拍手をいただきました。
 トークでは、榎木さんと
 中山学長が「芸術文化の創
 造に向けて」をテーマに語
 り合いました。午前中、本
 学の美術棟やデザイン棟、
 工房などを訪れた榎木さん
 は「緑が生い茂り、まるで
 オアシスのような空気で、
 心地よい場所でした」と施
 設の感想を述べ、「残るもの、
 変わるものそれぞれありま
 すが学校の色を大切にし
 て整備が進んでいくとい
 ですね」と今後のキャンパス

本学に「文部科学省 科学技術・学術政策局長賞」

「デザインと知的財産権制
 度の理解の促進を目的に開
 催された「平成27年度デザ
 インパテントコンテスト」で
 美術科の新名かすみさん
 (デザイン専攻プロダクトデ
 ザイン2年)が入選し、本
 学も「文部科学省科学技術・
 ションを行いました。」

芸短大オープンカレッジと公開授業 受講者を募集します

2016年度前期の「芸
 短大オープンカレッジ」と「公
 開授業」の受講生を募集し
 ます。芸短大オープンカレ
 ジは趣味の講座やビジネス
 スキルアップを目指す講座
 などさまざま。公開授業は
 学生と机を並べて学ぶこと
 ができる制度です。詳細は
 本学HP、折り込みチラシ
 をご覧ください。お問合せ
 は芸短大オープンカレッジ・
 公開授業担当まで(097-
 154510542)。

恩師からのお別れの言葉 今年度で退職される先生にお言葉をいただきました。



国際総合学科 准教授：玉井 昇

8年間に及ぶ勤務でしたが、着任した日のことが、昨日
 のように思い出されます。やはり、教育は学生がいてはじ
 めて成り立つもので、本学でたくさんのことを学びました。
 専攻外の科目も多々あって、試行錯誤の毎日でしたが、

学生の皆さんにも主体的に参加してもらいながら、一緒に
 授業を創り上げてこられたと感じています。また、大学の運
 営に関わった時期もあり、自身の経験と教育の幅が広が
 りました。そして、本学教職員の皆さま、地域の皆さまま
 からも数え切れぬご教示をいただき、感謝に堪えません。
 長い間ありがとうございました。

情報をいち早くGet!

〈大学ホームページ〉

<http://www.oita-pjc.ac.jp/>



芸文短大

検索

大分県立
 芸術文化
 短期大学

大学公式facebook



音楽科



OITA
 GEITAN
 VISUAL
 DESIGN

美術科ビジュアルデザインコース



国際総合学科



oita
 geitan
 Media Design
 OHO's
 LABORATORY

美術科メディアデザインコース



情報コミュニケーション学科

